

事業報告書

平成31年4月1日から
令和2年3月31日まで

1 事業の概況

我が国は、人口減少と高齢化が進んでおり、特に地方では若年層が都市部へ流出しており、高齢化に拍車をかけるなど厳しい状況が続いています。

阿佐東地域につきましても、これらの厳しい環境がますます深刻化していることに加えて、マイカー世代の高齢者層への拡大が続いており、鉄道輸送が減少の一途を辿っておりますが、当社が運営する阿佐東線が地元住民や四国遍路をはじめとする観光客の移動手段としての役割を果たすため、平成31年度も輸送の最大の使命である安全・安定輸送を最優先として事業に取り組んでまいりました。

安全面につきましては、鉄道の安全・安定輸送完遂のため列車の運転業務や駅業務を厳正に行うとともに、車両・設備の点検・検査を確実にを行い、安全最優先で業務に取り組みました。JRなど社外の研修、講習会、訓練にも積極的に参加し、社員の知識・技能の向上を図っております。さらに地元の中学校と連携し、また、団体ツアー客にも協力いただき、臨時列車を使用して、列車火災と地震津波を想定した避難訓練を実施し、事故発生時の社員の対応能力の維持・向上を図りました。

営業面では、阿佐東地域観光ツアー造成に伴い、徳島～室戸～高知間を割引価格で3日間乗り降り自由の「四国みぎした55フリーきっぷ」の販売を継続し、PR強化に努めました。利用促進策としましては「お花見列車」「こいのぼり列車」「てるてる坊主列車」「自然体験ツアー」「風鈴列車・天の川列車」「花火列車」「すすめ！お笑い列車」「サンタ列車」「飾り雛列車」「イルミネーション列車」など当社のイベントを実施し、また「海部川風流マラソン」「商工業祭」など地域の各種のイベントにDMV車両でパフォーマンスを行いながら、誘客活動やブース出店など、利用促進のためのPRとグッズ販売を行いました。また、地域のイベントの機会を捉えて臨時列車を運行し、利用客の利便性と収入の確保に努めました。

さらに、地元の方にマイルール意識を持っていただくため、地元中学校において阿佐東線をテーマとした総合学習の実施、地元中学生の職場体験の受け入れ、地元小学生の俳句・図画作品の車内および穴喰駅コンコースへの展示、幼稚園児による一日車掌・体験乗車やクリスマスツリー飾りつけを行いました。

「あさてつファンクラブ」会員様限定の阿佐鉄 30 周年記念切符を配付するなど会員確保にも努めました。

費用面では、平成 24 年度から取り組んでいる「経営改善計画（平成 29 年度更新）」に基づき人件費の削減をはじめとする経費節減策を継続的に実施しました。

阿佐東線のご利用状況につきましては、定期外人員は 51,543 人(対前年比 98.9%)、定期人員は 1,440 人(対前年比 100%)となり、合計で 52,983 人(対前年比 98.9%)となりました。

損益につきましては、営業収益が 6,889 千円(対前年比 59.0%)、営業費用が 86,803 千円(対前年比 94.1%)、営業外収益が 7,284 千円(対前年比 97.1%)、営業外費用が 1,335 千円(対前年比 101.2%)となり、当期経常損失は 73,965 千円(対前年比 99.4%)となりました。これに経営安定基金からの助成金をはじめとする特別利益及び特別損失等を加減し、当期純利益は 1,155 千円となりました。

これらの実績を分析しますと、旅客運輸収入では令和 2 年 1 月までの累計では対前年比 104.3%となり前年度を上回っておりましたが、2 月、3 月はコロナウイルスの影響で大きく落ち込み、年間累計では対前年比 94.6%となり、前年度を下回りました。また本年度から J R 四国との相互乗入を取り止めたことで運輸雑収入が 4,356 千円の減収となり、営業収益の減少の大きな要因となっております。営業費用は期中での運転訓練生退職に伴い人件費、研修費が減少し前年度を 5,471 千円下回りました。その結果、当期経常損失は前年度から 451 千円の改善となりました。

今後も阿佐東地区の少子・高齢化、人口減少、マイカー世代の高齢者層への拡大といった当社を取り巻く環境は今以上に厳しさを増していくと考えられます。また 2020 年度はコロナウイルスの影響によるマイナス要因も付加されてまいりますが、地元住民と四国遍路などの観光客の大切な移動手段として活用されるよう、鉄道輸送の使命である安全の確保を最優先として、輸送人員と収入の確保、経費の節減に取り組んでまいります。

また、世界初の本格営業運行を目指す DMV（デュアル・モード・ビークル）につきましては、阿佐東線存続の切り札として、また、観光の起爆剤として地方創生に寄与する乗り物として大いに期待されております。2020 年度内の運行開始に向けて、10 月には 3 台の車両完成お披露目イベントを行い、その後、京都鉄道博物館をはじめとする各地でのイベントに参加し PR 活動を行って参りました。甲浦駅舎改築は坂路部分の構築工事が終了し開通準備が整いつつあります。今後も自治体をはじめとする関係機関との連携をさらに強化し、運行開始に向けた準備をスケジュールに沿って進めてまいります。